



川崎

36 若宮八幡宮郷土資料館

かつて大師でも海苔がとれていた
川崎大師駅南口より徒歩2分という交通の便の良い所に当資料館はあります。かつてこの大師地区では海苔漁が盛んに行われていました。その歴史を知ることのできる写真や道具、また当時の暮らしを伺える生活用品などが展示されています。もう一つの特徴は、金山神社に関する鉄・石仏についての書物や、様々な時代・地域の民芸品などの資料が多数収集され、展示されています。

37 東芝未来科学館

学べて、楽しめる、入館無料の科学館
JR川崎駅より徒歩1分、ラゾーナ川崎ショッピングプラザに隣接し、過去・現在・未来にわたる人々の周りにある科学、技術をわかりやすく展示しています。ヒストリーゾーンの「創業者の部屋」や「1号機ものがたり」では日本の電気・電子技術の発展の歴史をご覧ください。お子様は、電気を自分で作ってみよう！「ハジデントライ」など体験しながら楽しく科学を学べます。大人気の「超電導の実演」や「静電気体験」、そして毎日開催しているサイエンスショーも必見です。

38 川崎市市民ミュージアム

国内初、漫画を収集した複合文化施設
緑豊かな等々力緑地内に、「都市と人間」をテーマに1988年に開館した博物館と美術館の複合文化施設です。歴史・民俗分野の収蔵資料を常時公開し、川崎の成り立ちと歩みを紹介しています。また年間を通じて多彩な企画展を開催、週末には映画上映や博物・美術に親しむワークショップなど、様々な催しを開催しています。美術の収蔵品はポスター・写真・漫画・フィルム等の大衆芸術が中心で、日本で初めて漫画資料を収集した公立施設として、手塚治虫のオブジェも常設展示されています。

39 電車とバスの博物館

みんなが楽しめる、体感型ミュージアム
東急線の旧型車両やバスの展示、HOゲージの模型が走る「ノノラマシアター」、お子さまでも運転が楽しめる「東横線CGシミュレーター」、プロ仕様の「8090 セシミュレーター」、Nゲージの模型レンタルもある「Nゲージパーク」、キッズワールドには鉄道系博物館では初の親子が並んで操作できる「キッズシミュレーター」や「プラレールパーク」があり、大人の方からお子さままで楽しめる博物館です。

40 かわさき宙(そら)と緑の科学館(川崎市青少年科学館)

毎月変わる生解説のプラネタリウム投影
緑豊かな生田緑地内にある自然科学系博物館です。多くの動植物標本による川崎市や生田緑地、多摩川などの自然展示のほか、自然観察会、天体観測会、科学実験教室などの体験学習イベントも楽しめます。一番のおすすめは、世界で当館に1台しかないプラネタリウム機「MEGASTAR-III FUSION」を駆使した世界最高水準の星空投影です。毎月変わるオリジナル番組の生解説による投影をお楽しみください。子ども向けや乳幼児向け解説、星空解説歴60年以上のプラネタリウム弁士による投影も好評です。

41 川崎市岡本太郎美術館

緑に囲まれた川崎の生田緑地にある岡本太郎美術館は、岡本太郎の芸術を堪能できる場所です。常設展示では年間を通じて岡本太郎の作品を様々な視点でとらえる展覧会を開催し、企画展示室では、芸術と社会との関わり、岡本太郎とその周辺の美術、岡本太郎の意志を汲み、新しい芸術の展開をめざす公募展・岡本太郎現代芸術賞展など年4回の企画展を開催しています。また、土日には展覧会や季節に絡めた様々なイベントを開催し、大人から子どもまで見て、学んで、楽しめる美術館です。

42 川崎市平和館

平和への理解を深める資料館
平和であるというのは、どういうことでしょうか？平和館では戦争だけでなく、貧困や差別など、平和な生活を脅かす多様な要素を展示し、来館者の皆様に色々な意味での平和について考えていただけるようになっています。1階の屋内広場では、川崎大空襲記録展(3月～5月)、親子平和推進事業、原爆展・特別展(8月)、企画展・ミニ企画展(6、11、12、2月)を開催しています。2階の常設展示では、様々な平和問題をより分かりやすく、深く理解してもらえるように音声ガイドや子どもたち向けのオリジナルエンターテインメントも用意しています。

43 (公社)川崎・砂子の里資料館

2019年12月に展示再開
江戸風白壁とたまご壁、瓦屋根の飾りの当館は、2001年11月5日「肉筆美人画展」でオープンいたしました。気軽に足を運んでいただけるよう入館無料とし、毎月発行の作品解説レポートも無料配布。毎月多くの方々にご覧いただきました。2016年9月に建物の改築に伴い、惜しまれながら閉館。現在休館中ですが、来年12月頃には、JR川崎駅北口接続のアートガーデンで再開いたします。いずれ決定次第ホームページ等でお知らせいたします。

44 明治大学平和教育登戸研究所資料館

“秘密戦”を学べる唯一の資料館
登戸研究所は日本陸軍の秘密戦兵器を研究していた所です。戦後、跡地を明治大学が買取り、生田キャンパスを開設しました。当館は登戸研究所の研究棟(細菌兵器室)を利用しています。ここで開発した風船爆弾・焼札・毒物などの兵器は、人道上・国際法規上として語り継ぐことに展示の重点をおいています。他にもキャンパス内に残る半地下式倉庫や動物慰霊碑、陸軍消火栓などの戦跡を見学することができます。※毎月見学会開催中

45 川崎市立日本民家園

日本を代表する古民家の野外博物館
東日本の代表的な民家をはじめ、水車小屋、船頭小屋、高倉、農村歌舞舞台など、25件の文化財建造物が見られる野外博物館です。25件すべてが国・県・市の文化財指定を受けています。各民家内には農具や生活用品類を展示している他、ボランテアによる田舎裏での火炊きも行われ、昔の暮らしを身近に感じることができます。年間を通じて季節に合わせた様々な催しも開催しています。本館展示室では民家暮らしに関する知識を学ぶことができ、併設の伝統工芸館では藍染め体験が人気です。

三浦

46 記念艦三笠

歴史を語り継ぐ船の上のミュージアム
「三笠」は、東郷平八郎司令長官率いる連合艦隊の旗艦として、1905年5月、対馬沖ロシアのバルチック艦隊を迎え撃ち、世界海戦史上稀な大勝利を収めました。東郷司令長官が戦闘の指揮をとった最上艦橋に登れば、バルチック艦隊を迎撃したときの情景がありありと浮かんできます。艦内は歴史博物館として貴重な歴史資料を展示している他、VRやシミュレーターなどの最新技術で、歴史を見て・触れて・体感することができます。

47-1 横須賀市自然・人文博物館

三浦半島の自然と歴史を学べる博物館
自然館入口ではナウマン象の全身骨格模型がみなさまをお迎えし、三浦半島でみられる動植物や昆虫、魚類などの標本や生態写真、地形などを展示しています。珍しい草木コナや森林のジオラマもあります。人文館では、「三浦半島にヒトが住みついたところ」から近現代までの幅広い歴史を、土器や埴輪、漁撈用具、近代の幕開けでもあるペリー来航の史料や横須賀製鉄所の模型などで展示しています。その他にも、年3回の特別展・企画展、博物館教室や野外行事も開催しております。

47-2 馬堀自然教育園

残したい三浦半島の自然
馬堀自然教育園は三浦半島の水辺や山林の動植物を保全しています。園内にはため池や水路のほか旧陸軍時代の建物もあり、一周約20分の観察路が整備されています(動植物の持ち帰りはできません)。学習棟ではそれらに関連する展示もしています。初夏には水辺をアサヒナカワトンボが飛び交い、ゲンジボタル・ヘイケボタルの観察会も開催しています。また、秋には林の中に様々なきのこを見つめることができます。県内では三浦半島でしかみられないトウキョウサンショウウオの生息地でもあります。

47-3 天神島臨海自然教育園

残したい三浦半島の海岸
天神島にはスカシユリ、ハマボウなど多くの海岸植物が育ち、海岸や周囲の海には多種多様な海洋動物がみられます(動植物の持ち帰りや海水浴などはできません)。特に、自生するハマオモト(ハマユウ)は自然分布の北限地として1953年に神奈川県天然記念物に指定されています。隣接するピジョンセンターではそれらの標本を展示しているほか、自然教育園では自然観察会やガイドツアーなどの行事も開催しております。富士山や伊豆半島の山並みを一望できる景勝地でもあります。

47-4 ヴェルニー記念館

横須賀製鉄所があった場所で体験学習
ヴェルニー記念館は、横須賀製鉄所の首長として日本の近代化の基礎を築きあげたフランソワ・レオンス・ヴェルニーの功績と意義を伝える体験学習施設です。横須賀製鉄所で使われていたスチーマーハンマー2台は、江戸時代末期の1865年にオランダでつくられたもので、国の重要文化財に指定されています。その他、子どもから大人まで楽しめる体験学習展示、横須賀の近代歴史遺産やスチーマーハンマーを紹介する映像番組の上映、横須賀製鉄所の3D映像展示などがあります。

48 観音崎自然博物館

自然とふれあう生きた博物館
東京湾集水域の「リアルな自然と生態」をテーマとして、観音崎にある海菜、季節の花々・草木・木本・磯の生物・昆虫・両生・爬虫類などを展示しています。観覧者は、生物やその行動を見るだけでなく、香りを嗅いだり、触ったりと人間の感覚を全て使って「リアルな自然と生態」を体感できます。特にタッチプールでは海の生き物に触ることが出来ます。さらに、トウキョウサンショウウオや天然記念物であるミヤコナゴなど絶滅寸前の生物も見ることが出来ます。ぜひ「リアルな自然と生態」を体感しに来てください。

49 京油壺ミュージアム

ペットも入れる水族館
三浦半島の西南端にある海のレジャーランド・水族館。視界360度の「回遊水槽」には、全長3mを超える大型のサメ・シロコも遊泳。音響・照明を駆使したミュージカル仕立てのひらか・あしかバフォーマンスは、完全室内劇場なので季節・天候に関わらず快適にご観覧いただけます。地元小学校と連携して神奈川県に生息する絶滅危惧種の繁殖・保護を行い、「みうら自然館」や「かわそうの森」ではその貴重な生体を、自然に近い環境で観察することができます。

50 葉山しおさい博物館

昭和発祥の地と海洋生物の博物館
葉山しおさい博物館は、1987年6月に昭和発祥の地として知られる葉山御用邸付扇形跡地に開館しました。当館では主に相模湾の海洋生物を展示しています。昭和天皇がご研究に用いたヒトリコ虫類を中心とした28の標本をはじめ、体系的に収集された優れた観賞植物を栽培・展示し、ご覧頂いています。こうした植物は現在では、3,000品種余りとなり、四季折々の彩りを演出しています。

51 山口蓬春記念館

趣きのある美術館と日本庭園
日本画家・山口蓬春の本画をはじめ、研鑽の偲ばれる素描、模写などの他、蓬春が長年にわたり収集した美術品の数々を、年間5回の展示替えを行いながらご覧頂いております。また、数々の名作を生み出した画室は、建築家・吉田五十八氏による設計です。当時のままの状態で保存し、四季折々の草木が楽しめる庭園とともに公開しております。ご来館された方々は、蓬春の生前の創作活動に思いを馳せながら、風光明媚な葉山の豊かな自然を満喫していただけるものと思います。

53 鎌倉宮宝物殿

クスノキに彩られた宝物殿
1873年鎌倉に行幸遊ばされた明治天皇をお迎えするための行在所を改築した宝物殿は、忠臣楠正成にちなんで植えられたクスノキが包んでいます。中では吉野城の戦いに臨まれた鎌倉御宗廟、護良親王の馬上像をはじめとして、勝海舟など、幕末から明治にかけての名高い人物達の書が並んでいます。また終戦時に横須賀鎮守府より奉納された東郷平八郎元帥を始めとする海軍高官の書を併せて展示し、南北朝また近代と激動期の日本の脈動を感じられる宝物殿です。

54 鎌倉国宝館

鎌倉の至宝を身近に見られる博物館
鶴岡八幡宮境内にある鎌倉市立の博物館です。1923年に起きた関東大震災で多くの鎌倉の社寺が被害に遭ったため、これを教訓として、社寺の破壊ある宝物を守るべく1928年に設立されました。設立時からの建物である本館は、国の登録有形文化財に登録されています。彫刻、絵画や古文書など、国宝、重要文化財をはじめとした貴重な文化財を数多く保管・展示しています。彫刻展示場については、ガラスケースを用いない露出展示で、仏像の生の迫力を味わうことができます。

55 鶴岡八幡宮宝物殿

当宮の宝物殿は1892年、第2回鎌倉懐古展覧会を巡廻にて開催したことをはじまりとしております。こちらでは、後白河法皇が奉納されたと伝えられる「御神袍」(東京国立博物館寄託品・国宝)の一部や古神宝「朱塗弓・黒漆矢」(鎌倉国宝館寄託品・国宝)などを展示しております。お参りの皆さまに、当宮の歴史とそこから生まれた文化に触れて頂き、その中で神社への関心と理解をより一層深めて頂くことで、八幡さまをもっと身近に感じて頂きたいと思っております。

56-1 神奈川県立近代美術館 葉山

日本で最初の公立近代美術館
1951年に鎌倉の鶴岡八幡宮境内に鎌倉館が開館して以来、企画展を中心に館内で先導的な役割を担ってきました。この鎌倉館は2016年に閉館し、現在は、葉山館と鎌倉別館(2019年9月(予定))まで改修工事のため休館中)の二館体制で活動しています。2003年に開館し15年目を迎えた葉山館は、一色海岸と三ヶ岡山に囲まれた環境を生かし、自然との調和をはかった開放的な施設となっています。彫刻庭園、美術図書室、レストランやミュージアムショップは観覧料なしで利用可能です。

56-2 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

神奈川県立近代美術館は、1951年に鎌倉館、1984年に鎌倉別館、2003年に葉山館が開館したのち、2016年に鎌倉館が閉館し、現在は葉山館と鎌倉別館の二館体制で活動しています。鎌倉別館は、旧鎌倉館から北鎌倉駅方向に350メートルほどのところにあります。設計者の大高正人(1923-2016)は、山に挟まれた立地に溶け込むような意匠的工夫をしています。2019年9月(予定)まで改修工事のため休館中です。

57 観音ミュージアム

見て、触れて、学ぼう!観音さまのすべて
国内でもトップクラスの大きさの十一面観音像を祀る、鎌倉長谷寺。その境内に佇む観音ミュージアムは、2015年のリニューアルオープン以来、観音菩薩に関するさまざまな情報を発信してきました。国指定重要文化財2件を含む多様な常設展示とあわせて、観音信仰に関する様々なテーマの企画展を開催する当館では、限られた展示スペースながらも随所に映像展示やタッチパネルを備えることで、五感を使って観音菩薩の歴史と美術に親しんでいただけます。

58 神奈川県立大船フラワーセンター

リニューアルした大船フラワーセンター
神奈川県内の観賞植物の生産振興と花弁園芸の普及のため、1962年に神奈川県農業試験場の跡地に開設されました。改修工事のため一時期閉鎖しておりましたが、2018年4月1日にリニューアルオープンし、新たな魅力を提供しています。大正年代から、この地で改良・育成されたジャコウチヤオやハナショウブをはじめ、体系的に収集された優れた観賞植物を栽培・展示し、ご覧頂いています。こうした植物は現在では、3,000品種余りとなり、四季折々の彩りを演出しています。

59 鎌倉・吉兆庵美術館

当館は、鎌倉ゆかりの美食家であり陶芸家でもある「北大路魯山人」の作品を常設展示しています。料理を装う「食器」をはじめ、書画・漆工芸品など、多岐にわたって才能を開花させた魯山人が精魂込めた作品の数々をご覧ください。この他、鎌倉の美しい四季の移ろいに合わせて、人形、浮世絵、かんざし、漆器などの工芸品や焼き物など年4回の企画展も常時開催し、歴史情緒あふれるこの地域に寄り添った展示を開催しています。

県央

91 愛川町郷土資料館

来て、見て、楽しんで
2009年に開館した歴史・自然に関する展示施設です。入口では、約300年前の古代象の化石標本(レプリカ)が来館者を迎えます。展示室の中は、渓谷の植物や里山の動物が実際に館内に生息しているかのような雰囲気です。八雲山(はずせん)の修験、戦国時代の三増(みさへ)合戦のコーナーで、古代から中世に至る町の歴史を垣間見いただけます。町の近代産業であった「半原炭素」の紹介、陸軍飛行場が現在の工業団地へ変遷する過程を紹介し、変遷する町域の様子を展示します。

92 海老名市立郷土資料館 海老名市温故館

相模国分寺跡とレトロな建物が見どころ
当館は、100年前に建てられた旧海老名村役場の建物を利用した郷土資料館で、海老名市内の考古・歴史・民俗資料を展示しています。1階には、市内に3つある国指定史跡(相模国分寺跡、相模国分寺跡、秋葉山古墳群)から出土した土器や瓦がスラリ。相模国分寺跡の復元模型もあります。2階の民具はちょっと昔に戻れる不思議な空間。当館の目の前には、相模国分寺跡が広がり、七重塔や金堂跡等の大きな礎石を見ることができます。館内外の楽しい解説も自慢です。

93 あつぎ郷土博物館

「何かに出会える、参加できる」博物館
2019年1月27日、あつぎ郷土博物館が中津川に面した自然豊かなロケーションに開館いたします。「厚木のひと・もの・ぶんかの移動・交流・融合」をテーマとする総合博物館となりますが、テーマに則した地域資料を収集・保管し、展示などに活用することで郷土に対する興味、理解を深める「あつぎ百科(データベース)」になるという旧館からのスタンスは継続しながらも、より充実した展示、講座が提供できる。そのような博物館へと生まれ変わります。出なければ「何かに出会える、参加できる」、そんな博物館の誕生です。

94 相模川ふれあい科学館 アクリウムさがみはら

いろいろな体験水族館
相模川に生息する生き物を中心に展示している淡水魚水族館。上流から河口まで約113kmの相模川を再現した40mの「流れのアクアリウム水槽」や、川魚に直接エサやり体験(エサ有料)が出来る「おさかなドレーナーになろう!」などお子様から大人まで楽しめます。その他にも飼育スタッフによるガイドや、身近な材料で作る「ものづくりワークショップ」などお楽しみ盛りださんの水族館です。

95 光と緑の美術館

イタリア20世紀美術
光と緑の美術館は、相模原市上溝在住の鈴木正彦が1994年11月に設立した個人美術館です。現館長の亡父鈴木彰一が残した数十点の日本画を基盤として出発し、現在は「イタリア近・現代美術を中心に収集、展示しております。独自の企画展、収蔵品展、講座、イベントなどの活動を行っております。」「太陽の光や自然の緑が人間にとって不可欠なものであるように、芸術作品も私たちにとって無くしてはならない身近な存在であることを感じて欲しい。」

96-1 相模原市立博物館

自然や歴史・宇宙を実感!森の中の博物館
相模原市の自然・歴史と宇宙について学べる総合博物館です。県内最大級の直径23mのドームではプラネタリウムや全天周映画も楽しめます。博物館では、資料の収集保存や調査研究活動のほか、企画展、講演会、講座、体験事業、探訪事業など様々なイベントを開催しています。また、隣接するJAXAと連携した様々な宇宙関連事業も数多く開催しています。

96-2 尾崎弔堂記念館

議会政治の父 尾崎行雄(弔堂)を紹介
尾崎行雄(弔堂)の生誕地に建設された記念館です。尾崎行雄は、第1回帝国議会に衆議院議員として当選以来、連続当選25回、在任60年余り衆議院議員として活躍しました。特に、東京市長時代に米国王ワシントンへの3000本の桜を寄贈したほか、普通選挙の実施や不戦を唱えるなどの業績を残しました。館内では、尾崎行雄の業績を紹介する展示のほか、企画展や講演会なども開催しています。春には寄贈した桜ゆかりの「弔堂桜」が咲き誇ります。

96-3 吉野宿ふじや

甲州道中の名残りを留める貴重な建物
1896年(明治29年)の吉野宿大火後に建てられた甲州道中の旅館の名残りをとどめる建造物で、市登録有形文化財に登録されています。吉野宿ふじやでは、甲州道中や吉野宿に関する展示の他、藤野地域の歴史、産業、文化などにかかわる郷土資料を展示しています。また、各種企画展や企画展にかかわる体験、探訪事業なども開催しています。

97 女子美アートミュージアム

女子美術大学の付属美術館
女子美術大学は1900年の創立から110数年の歴史を持ち、片岡球子、三岸節子、堀文子をはじめとする多くの著名作家を輩出しています。「女子美アートミュージアム」にはそれらの卒業生や教員の作品、国内外1万2千点の染織品からなる「女子美染織コレクション」を収蔵し、それらを中心に年7回程度の企画展を開催しています。相模原公園の南側に隣接する美術館で芸術に触れ、公園でのんびり過ごしてみたいいかがですか。

98 大和市つる舞の里歴史資料館

大和市つる舞の里歴史資料館は、地域の歴史資料を収集、保管し、展示活用すると共に、市民の方々の郷土の歴史に対する理解を深めるために建設されました。特に大和市北部地域(旧下鶴岡村)の歴史を紐解く資料を収集し、展示することを大きな柱としています。建物は地域の特色を生かし、外観は幕末から明治初期の農家をモチーフとしたもので、内部の意匠は農家の庭、納屋、土蔵というイメージで構成し、農家の生活空間を再現しています。

99 松蔭大学資料館

吉田松陰について学ぼう
本資料館は、1941年に世田谷に開設されました。吉田松陰の実学精神に基づく「知行合一」を校是とした創設者の建学精神に則り、社会で活躍する「ホスピタリティ(他者を思いやる心)」を基盤とし人間形成を図り、心身共に健全な人材の育成をすることが第一の目的です。その後、森のキャンパスを経て、2012年にステーションキャンパスに移転しました。主に校是にある吉田松陰関係資料や文獻、本学国史や「日本のあかり」「三学部」展等の貴重な資料を展示しています。